

高木大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録

(平成28年4月16日(土) 15:34～15:43 於) 宮城県仙台市)

1. 発言要旨

まず初めに、熊本におきまして、本日(16日)未明に、14日の地震を上回る新たな地震が発生いたしました。また、熊本あるいは大分で余震が続くなど、大きな被害が出ております。改めて亡くなられた方の御冥福を心からお祈りするとともに、御家族の皆様方にお悔やみを申し上げ、また被災された多くの方々に心からお見舞いを申し上げます。

私は、新たな地震発生の報告を受けまして、被害情報の収集と、東北地方での被害を調べるよう指示をいたしました。東北では直接の被害は出ていないようでありまして、本日の視察地も受入れに問題がないということを確認できましたので、政府の非常災害対策本部や熊本等の現地での災害応急対策の動きを注視しつつ、本日、視察を行わせていただきました。

熊本等では現在も余震が続いておりまして、引き続き予断を許さない状況でございます。今後とも注意深く見守ってまいりたいと考えております。

さて、本日は石巻市、東松島市、利府町、仙台市を訪問させていただきました。また、「心の復興」事業、あるいは魚市場、農業施設、2020年東京オリンピック・パラリンピックのサッカー会場予定施設、あるいはまたG7財務大臣・中央銀行総裁会議会場などの現地視察を行わせていただきました。

石巻で視察させていただきました、料理等を通じての地域の社会的なつながりを作っていくとするNPOである、ぐるぐる応援団の取組は、家族を失った被災者などがコミュニティーと生きがいを取り戻す、とても意義深い先進的な取組と感じました。また、昨年完成いたしました魚市場では、衛生管理、放射能検査とも、とても高度で漁業関係者の食の安全・安心の確保に向けた強い思いを感じました。国においても風評対策や販路開拓支援をしっかりと行ってまいりたいと思います。

東松島の農業法人サンエイトは、防集跡地で大変おいしいイチゴ、「もういっこ」を栽培していらっしゃいました。従業員の皆さんが大変明るく、夢のある農業を展開されているのを視察させていただきました。

利府の宮城スタジアムでは、2020年にここで復興五輪がにぎやかに開催され、東北の復興の姿を世界に届ける様子を想像することができました。東北の確かな復興を発信してまいりたいと思います。

また、ここ仙台の秋保では、豊富な観光資源があることを認識させていただきました。昨日の観光アドバイザー会議の提言を踏まえて、G7もステップにして、インバウンドの増加、観光振興に取り組みたいです。

本日は、産業、なりわい、観光の再生や心のケアなどのソフト面での復興の進捗を確認させていただきました。今後の重点分野でございしますので、引き続きしっかりと重点的に取り組んでまいりたいと思います。私からは以上でございします。

2. 質疑応答

(問) 熊本の地震の話がありましたけれども、大きな被害が出ています。復興庁として何か今後、施策など、考えられていることがありましたら教えてください。

(答) 先ほど申し上げましたけれども、今は政府を挙げて一丸となって態勢も整え、派遣の人員も大幅に増やしているというふうになっているところとございまして、復興庁としては直接、私はいわゆる非常災害対策本部のメンバーでもございしません。しかし、しっかりと注視しながら、これから復興庁としてすることがあれば、それはしっかりと対応していきたいと思いますが、今は政府一丸となってしっかりと対応しているというふうに認識をいたしております。

(問) 地元の自治体からは、激甚災害に指定をしてほしいといった声も上がっていますけれども、何かそのあたり、国として、何かお話というのは出るのでしょうか。

(答) それはまた、激甚災害ということは考えられることだと思いますし、いずれにしても今は、とにかく人命第一でございします。特に余震続いておりますし、天気のことにも心配でございしますので、今はとにかく人命を救出するということに集中をしている状況でございします。

(問) もう一点。先ほど市長とのお話の中で、海外プロモーションを行っていききたいというふうにお話しされていましたが、そのあたり、具体的にどういったことを、何か考えられていることがありましたら教えてもらえますか。

(答) 文字どおり、東北の良さというものを海外にしっかりと発信をしていく。そして、あわせて風評ということもございしますので、決してそういうことではないと、正しい情報を発信して、すばらしい東北というものをアピールして、そして多くのインバウンドを呼び込むということだというふうに思います。

(問) 改めて、復興・創生期間に入って初めての視察だと思うんですが、特にこの5年間でどのように復興庁として取り組んで

いくのか。あと、その被災地の現状で、まだまだ復興の遅れというところがあると思うんですけども、そこをどのように認識していращやるか。

(答) 集中復興期間5年間、インフラの整備、あるいは住まいの再建、集中的に取り組んできたかと思います。いよいよそれも28年度、ピークを迎えるわけですが、何を置いてもまず被災地の方が、恒久的な住宅に速やかに移っていただくこと、これはもう必ず早くやらなければならないことであります。

併せて、今日もそうしたところを視察させていただきましたけれども、産業・生業、あるいは心の復興、そうしたことがこれから大変大切になってきます。もちろん観光もそうでありますけれども、これから復興・創生期間、正に復興して、そして創生していくという、それはハードもソフトもそうでありますけれども、そうした期間に入るわけですので、片方では住まいをしっかりと再建していく、そしてもう一つ、産業、生業、生活、そういったところにも力を入れてやっていくということだというふうに思います。

(問) 昨日ですか、東北観光アドバイザー会議の方から提言がありましたけれど、改めてその東北のインバウンド対策というのは、どのように取り組んでいくのか。あと、7月に仙台空港の民営化もあるわけですが、ここに関しては復興庁としてどのような支援、あるいは対策というのを立てていくお考えでしょうか。

(答) 東北、いろんな強みがあると思います。やはり強みを前面に打ち出していくことが大事なんだろうと思います。一つには、雪という大変、まあもちろん白馬、あるいはニセコ、新潟等にもすばらしいスキーリゾート、スノーリゾートありますけれども、それにも負けないすばらしい資源だというふうに思います。その雪に温泉、あるいはまた古民家、あるいは民話なども、この東北ならではのものかというふうに思いますし、また改めて、その雪と桜というものがマッチできるところだというふうにも思いますので、そうしたところを、雪だけではなくて、それに東北のすばらしい資源というものを合わせていく、そして、それを打ち出していくということかというふうに思います。

それから、仙台空港については、これはもう、この東北観光のゲートウェイの中心をなすものであるということ、間違いはございません。併せて、北の函館、あるいは南の羽田、成田というのも東北のゲートウェイになり得るわけですから、北海道、取り分け道南と一緒に東北の観光、あるいは北関東にもいろんな観光資源がございますから、そうしたところの観光資源と合わさった形での東北の観光、そういったようなことも考えられ

ると思いますが、もちろん仙台空港のことに関して言うならば、これはもう中心的なゲートウェイとしての機能を果たしていただかなければならない空港だというふうに思っております。

(問) 先ほどもお話ありましたけれども、熊本の地震の件で、大臣御自身が熊本に行かれる御予定など、ないでしょうか。

(答) 今はそういった予定はございません。

(以 上)